

旭区区民意識調査アンケート

「旭区の今後の暮らしを考える基礎調査」

調査結果報告書

(概要版)



調査概要

- ◆ 目的: 旭区内にお住まいのすべての方が安全・安心に暮らし続けられ、今後も住みよいまちづくりを進めるための基礎資料として活用することを目的とする。
- ◆ 調査対象: 住民基本台帳・外国人登録原票を基に 20 歳以上の男女無作為抽出 3,000 人
- ◆ 調査方法: 郵送によるアンケート形式
- ◆ 調査期間: 平成 23 年 7 月 13 日～8 月 1 日
- ◆ 回収数: 1,622 件 (回収率 54.1%)

平成24年2月

横浜市旭区役所

目 次

◆回答者の属性	2
◆旭区の住み心地	4
◆定住意向	6
◆心配ごとや困っていること	8
◆生活環境の満足度と行政に取り組んでもらいたいもの	9
◆地域活動への参加	10
◆地球温暖化対策の取組状況	11
◆防災	12
◆高齢者とのかかわり	15
◆老人クラブについて	17
◆子どもとのかかわり	19
◆子育て	20
◆旭区役所の取組についての意見や提案	24

◆集計結果の見方

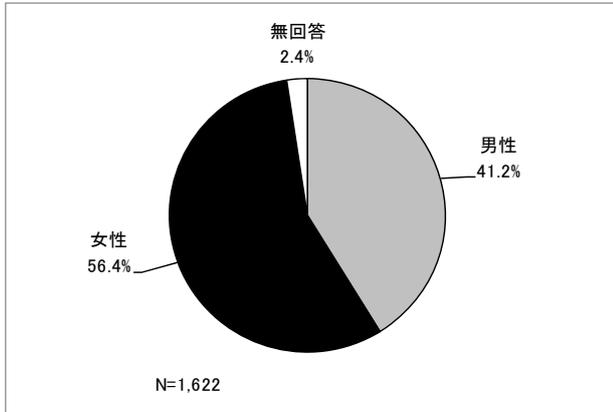
- ① 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットNは、その設問に対する回答者数をあらわす。
- ② 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

※概要数値の見方

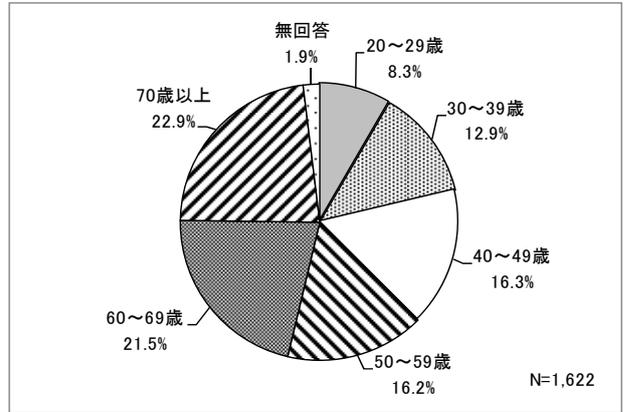
数値はそれぞれ割合（%）を表示。基数の記述があるもの以外は有効回収数を基本としている（N=1,622）。

回答者の属性

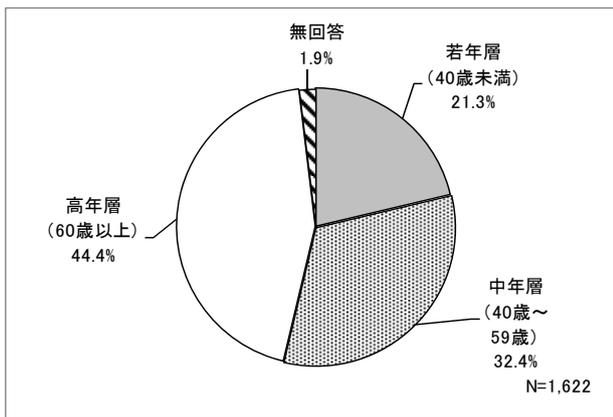
性別



年齢



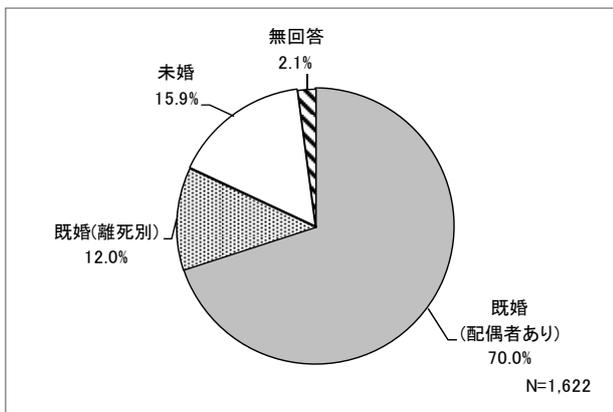
年齢層



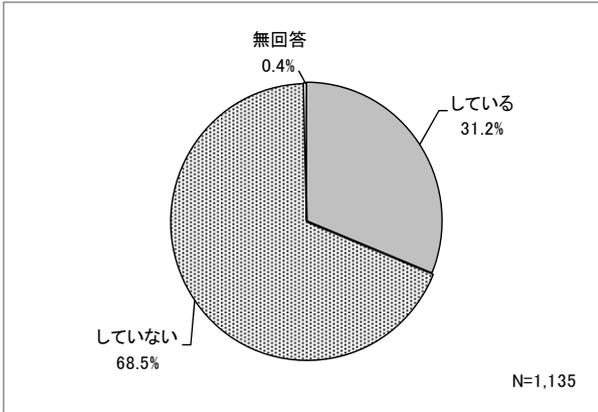
居住地区 (50音順)

市沢町、今川町、今宿二丁目、今宿町、今宿西町、今宿東町、今宿南町、小高町、柏町、金が谷、金が谷一丁目、金が谷二丁目、上川井町、上白根町、上白根一丁目、上白根二丁目、上白根三丁目、川井宿町、川井本町、川島町、桐が作、左近山、笹野台一丁目、笹野台二丁目、笹野台三丁目、笹野台四丁目、さちが丘、三反田町、四季美台、下川井町、白根町、白根一丁目、白根二丁目、白根三丁目、白根四丁目、白根五丁目、白根六丁目、白根七丁目、白根八丁目、善部町、都岡町、鶴ヶ峰一丁目、鶴ヶ峰二丁目、鶴ヶ峰本町一丁目、鶴ヶ峰本町二丁目、鶴ヶ峰本町三丁目、中尾一丁目、中尾二丁目、中希望が丘、中沢一丁目、中沢二丁目、中沢三丁目、中白根一丁目、中白根二丁目、中白根三丁目、中白根四丁目、西川島町、東希望が丘、二俣川1丁目、二俣川2丁目、本宿町、本村町、万騎が原、南希望が丘、南本宿町、矢指町、若葉台一丁目、若葉台二丁目、若葉台三丁目、若葉台四丁目

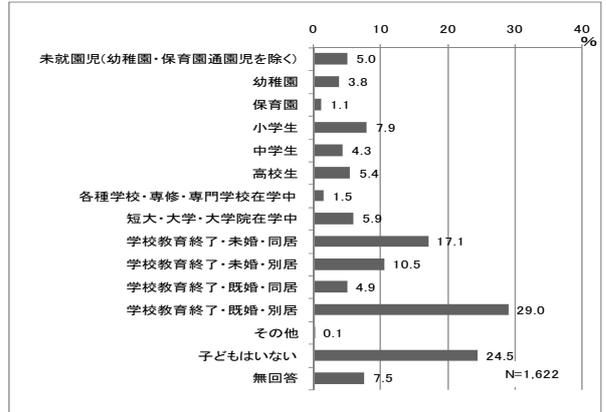
婚姻の有無



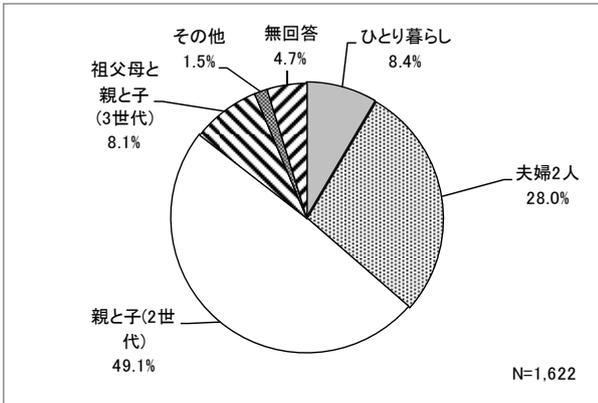
共働きの有無



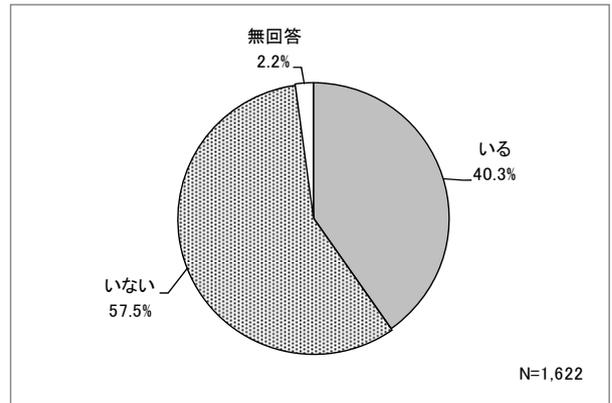
子どもの有無と段階



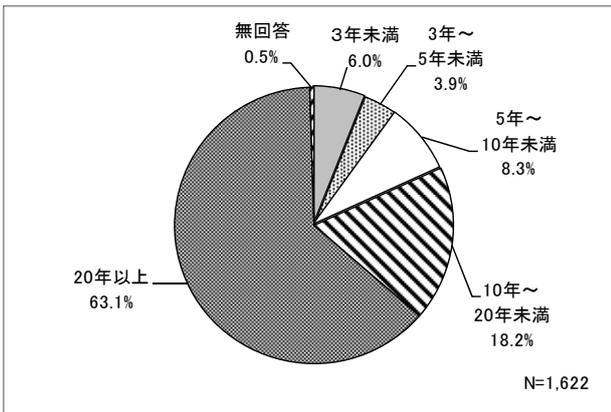
家族構成



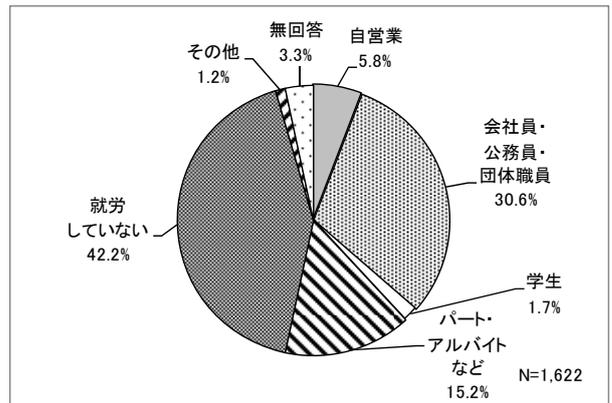
65歳以上の同居家族の有無



居住年数



就労状況

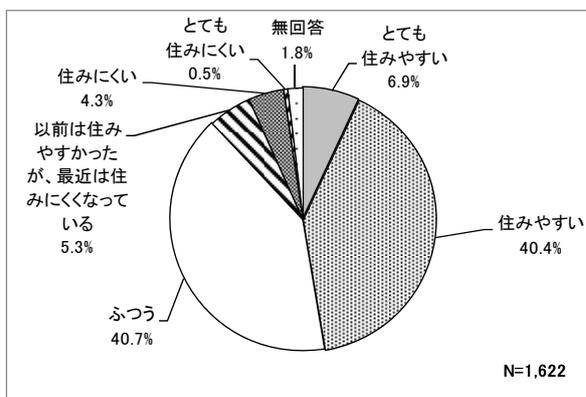


旭区の住み心地

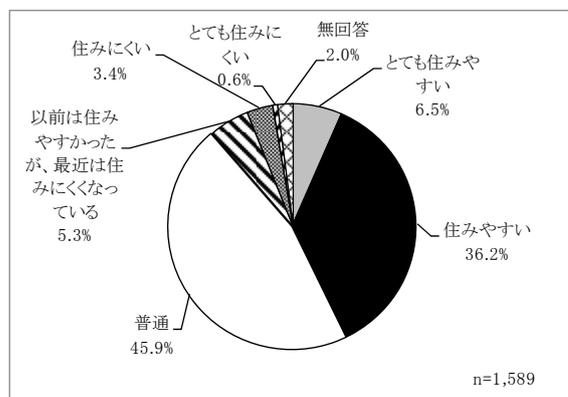
- ・「旭区が住みやすい」と思っている区民が、前回の調査よりも増加。前回の調査に比べ、「50歳代」、「60歳代」の住み心地が特に好転。
- ・住みやすさの理由は、「緑(公園)が多い」「買い物がしやすい」「交通の便がよい」が上位。地域による特徴も見られる。
- ・住みにくい理由は、「交通の便が悪い」「買い物がしにくい」が上位。

- ・「住みやすい」「とても住みやすい」を合わせると 47.3%と、半数弱の人が住みやすいと感じている。前回(平成18年度)調査と比較すると、「とても住みやすい」と「住みやすい」を合わせたものが4.6ポイント増加しており、住み心地が好転している傾向が伺える。

旭区の住み心地



旭区の住み心地(平成18年度調査)



- ・年齢別で前回調査と比較すると、40歳代から70歳代で「とても住みやすい」「住みやすい」が上昇。特に50歳代の8.1ポイント、60歳代の8.8ポイントが大幅増加。

年齢別 旭区の住み心地

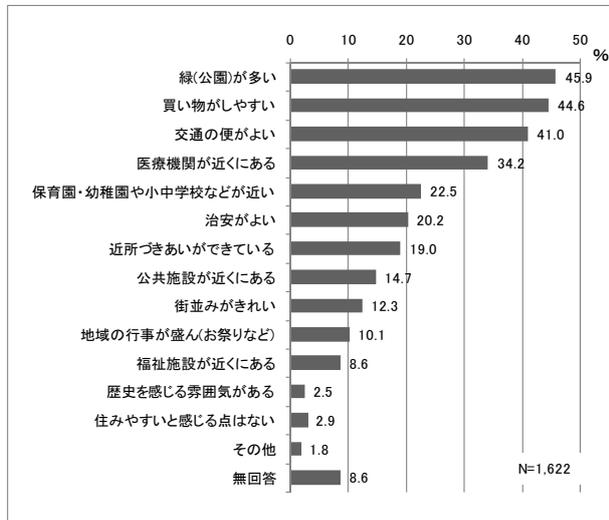
	合計	問1 旭区の住み心地						
		とても住みやすい	住みやすい	ふつう	以前は住みやすかったが、最近に住みにくい	住みにくい	とても住みにくい	無回答
全体	1622	6.9	40.4	40.7	5.3	4.3	0.5	1.8
F2-1 年齢(統合)								
20~29歳	135	8.9	40.7	43.0	3.7	2.2	0.0	1.5
30~39歳	210	4.8	37.1	44.8	4.3	7.6	0.5	1.0
40~49歳	264	6.1	40.2	40.2	3.4	9.1	0.4	0.8
50~59歳	262	5.3	43.5	43.5	4.2	3.1	0.4	0.0
60~69歳	349	8.3	43.3	43.3	36.4	5.4	2.9	0.6
70歳以上	371	8.4	38.8	39.1	8.6	2.2	0.5	2.4
無回答	31	0.0	25.8	51.6	3.2	3.2	3.2	12.9

年齢別 旭区の住み心地(平成18年度調査)

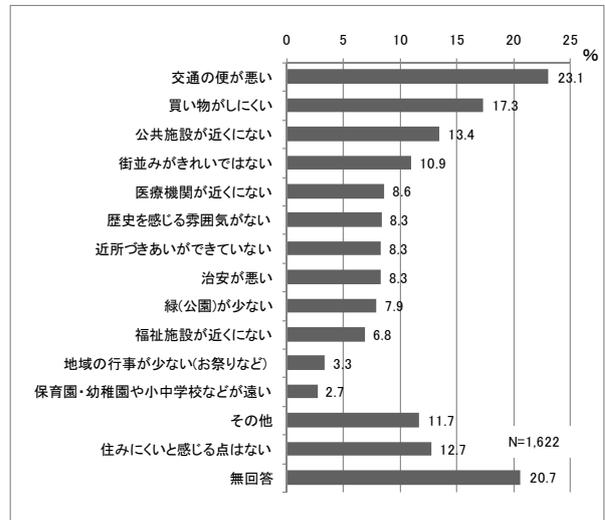
	合計	問1 旭区の住み心地						
		とても住みやすい	住みやすい	ふつう	以前は住みやすかったが、最近に住みにくい	住みにくい	とても住みにくい	無回答
全体	1589	6.5	36.2	45.9	5.3	3.4	0.6	2.0
F2-1 年齢(統合)								
20~29歳	137	13.1	36.5	43.1	2.2	3.6	1.5	0.0
30~39歳	251	5.6	36.3	49.4	3.6	2.4	0.8	2.0
40~49歳	213	7.0	35.7	45.5	3.3	6.6	0.5	1.4
50~59歳	275	6.2	34.5	44.4	8.4	2.9	1.1	2.5
60~69歳	369	5.4	37.4	45.8	5.4	3.8	0.3	1.9
70歳以上	324	5.6	36.4	46.3	6.2	2.2	0.3	3.1
無回答	20	10.0	40.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0

- ・ 住みやすさの理由では、「緑(公園)が多い」が最多で 45.9%、「買い物がしやすい」が 44.6%で、この2つがほぼ並ぶ。次いで「交通の便がよい」が 41.0%、「医療機関が近くにある」が 34.2%で、ここまでは3割を超えている人が挙げている。
- ・ それぞれの地区で最も多くなっている項目は、万騎が原、希望が丘南、上白根、川井、若葉台、今宿、旭南部、左近山、市沢では「緑(公園)が多い」、鶴ヶ峰、さちが丘、二俣川では「交通の便がよい」、白根、旭中央、希望が丘、希望が丘東、旭北では「買い物がしやすい」、笹野台では「医療機関が近くにある」が、それぞれ最多、二俣川ニュータウンでは「緑(公園)が多い」「交通の便がよい」が同率となっており、地区による特徴が顕著にみられた。
- ・ 住みにくい点では、「交通の便が悪い」が最も多く 23.1%の人が挙げている。次いで「買い物がしにくい」(17.3%)、「公共施設が近くにない」(13.4%)と続く。

住みやすいと思われる点



住みにくいと思われる点



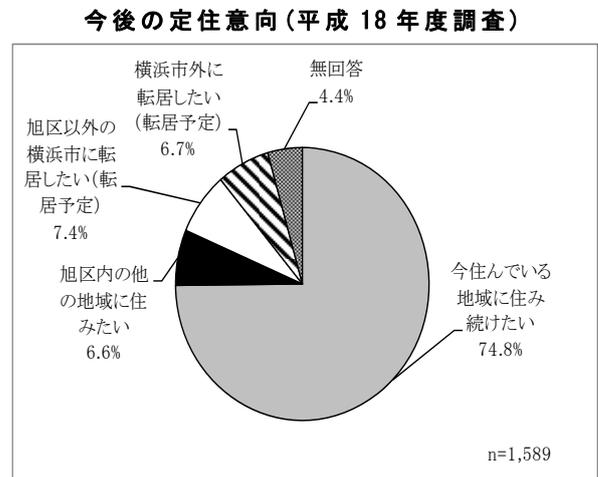
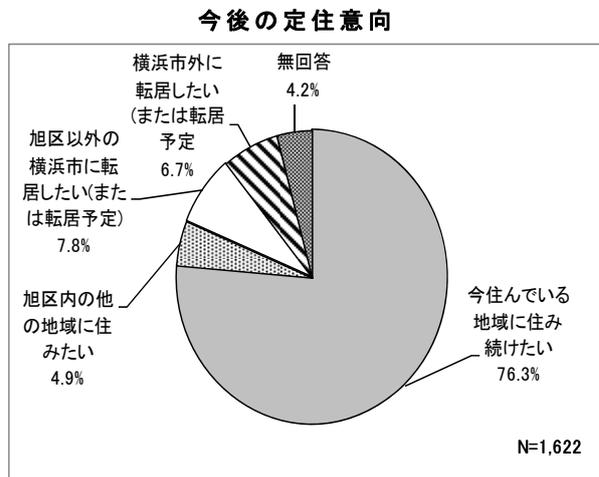
居住地区別 住みやすいと思われる点

	合計	問1-1 お住まいの地域の住みやすいと思われる点														
		街並みがきれい	緑(公園)が多い	交通の便がよい	近所づきあいができている	(地域の行事が盛ん)	治安がよい	買い物がしやすい	医療機関が近くにある	福祉施設が近くにある	公共施設が近くにある	歴史を感じる雰囲気がある	保育園・幼稚園や小中学校などが近い	その他	住みやすいと感じる点はない	無回答
全体	1622	12.3	45.9	41.0	19.0	10.1	20.2	44.6	34.2	8.6	14.7	2.5	22.5	1.8	2.9	8.6
F3-1 お住まいの町(統合1)																
鶴ヶ峰地区町内会連合会	178	6.7	34.8	51.1	23.6	11.8	20.8	49.4	39.9	7.9	25.8	7.3	16.9	1.1	2.2	9.0
白根地区町内会自治会連合会	110	5.5	50.9	33.6	14.5	5.5	18.2	57.3	31.8	9.1	35.5	5.5	28.2	2.7	0.9	6.4
旭中央地区連合町内会	38	7.9	28.9	28.9	31.6	5.3	26.3	47.4	21.1	5.3	42.1	2.6	5.3	5.3	2.6	7.9
万騎が原連合自治会	75	34.7	69.3	60.0	20.0	1.3	16.0	46.7	29.3	5.3	8.0	5.3	24.0	0.0	1.3	6.7
希望が丘南地区連合自治会	57	10.5	35.1	28.1	14.0	7.0	22.8	26.3	19.3	1.8	3.5	1.8	12.3	0.0	5.3	12.3
さちが丘地区連合自治会	72	2.8	26.4	59.7	12.5	4.2	11.1	51.4	31.9	0.0	5.6	0.0	20.8	0.0	4.2	12.5
希望が丘連合自治会	52	11.5	34.6	53.8	17.3	7.7	25.0	65.4	26.9	7.7	9.6	0.0	23.1	3.8	3.8	7.7
二俣川地区連合自治会	83	4.8	26.5	77.1	20.5	9.6	14.5	74.7	41.0	6.0	21.7	1.2	16.9	1.2	2.4	1.2
希望が丘東地区連合自治会	112	6.3	23.2	50.0	19.6	5.4	24.1	50.9	38.4	10.7	16.1	1.8	24.1	1.8	0.9	11.6
旭北地区連合自治会	113	14.2	43.4	28.3	15.9	6.2	17.7	53.1	28.3	8.0	15.9	2.7	26.5	1.8	0.0	12.4
上白根連合自治会	47	10.6	74.5	34.0	19.1	14.9	19.1	34.0	34.0	17.0	4.3	0.0	25.5	2.1	4.3	8.5
川井地区町内会自治会連合会	79	2.5	50.6	22.8	22.8	7.6	16.5	17.7	30.4	13.9	5.1	2.5	16.5	2.5	7.6	13.9
若葉台連合自治会	123	34.1	83.7	26.8	11.4	29.3	30.9	46.3	65.0	18.7	9.8	0.0	27.6	0.0	0.8	4.9
笹野台地区連合自治会	87	11.5	29.9	39.1	24.1	14.9	26.4	42.5	43.7	5.7	4.6	0.0	17.2	5.7	3.4	6.9
今宿地区町内会自治会連合会	89	1.1	42.7	13.5	18.0	10.1	13.5	34.8	16.9	12.4	11.2	2.2	24.7	3.4	4.5	12.4
二俣川ニュータウン連合町内会	75	37.3	48.0	48.0	28.0	9.3	24.0	30.7	32.0	4.0	8.0	0.0	22.7	2.7	6.7	2.7
旭南部地区連合自治会	64	3.1	53.1	48.4	15.6	3.1	14.1	39.1	20.3	6.3	15.6	1.6	23.4	0.0	1.6	9.4
左近山連合自治会	64	12.5	79.7	37.5	9.4	17.2	10.9	31.3	31.3	3.1	7.8	1.6	35.9	1.6	3.1	9.4
市沢地区連合町内会	59	10.2	45.8	32.2	25.4	11.9	32.2	30.5	27.1	13.6	11.9	5.1	25.4	1.7	6.8	8.5
無回答	45	17.8	42.2	42.2	22.2	8.9	17.8	28.9	33.3	8.9	13.3	0.0	28.9	0.0	2.2	8.9

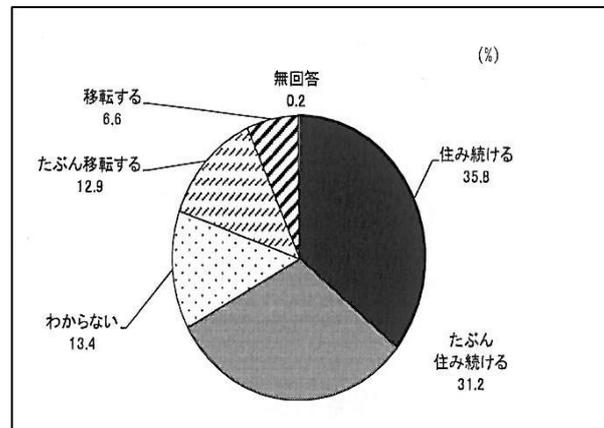
定住意向

- ・ 前回の調査と同様、「旭区に住み続けたい」が8割以上。
- ・ 「旭区に住み続けたい」方の「住みやすい理由」は、「緑(公園)が多い」「買物がしやすい」「交通の便がよい」と続く。

- ・ 「今住んでいる地域に住み続けたい」が76.3%で圧倒的に多く、全体の4分の3以上を占めている。「旭区内の他の地域に住みたい」4.9%とあわせて81.2%の区民が旭区に住み続けたいと思っている。前回調査でも「今住んでいる地域に住み続けたい」「旭区内の他の地域に住みたい」が8割を超えており、ほぼ同様の傾向で移行している。
- ・ 横浜市民の定住意向は67%（平成23年度市民意識調査、今のお住まいに「住み続ける」「たぶん住み続ける」の合計）。



＜参考＞平成23年度市民意識調査「定住意向」より



- ・ 「旭区に住み続けたい」方が「住みやすい理由」として挙げているのが、「緑(公園)が多い」が47.7%で最も多く、「買物がしやすい」(47.0%)、「交通の便がよい」(43.5%)と続く。

今後の定住意向と旭区の住み心地

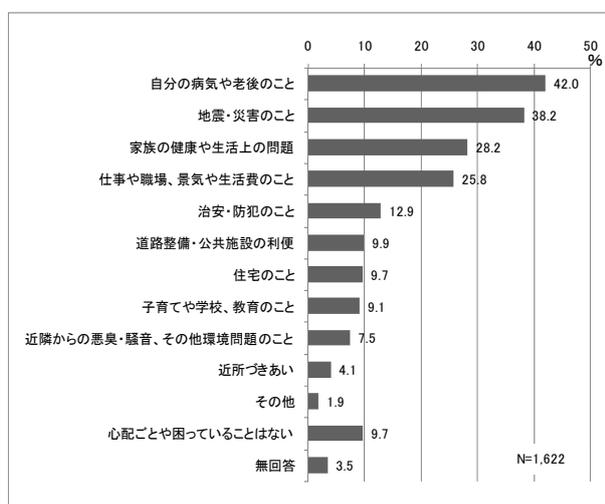
	合計	問1-1 お住まいの地域の住みやすいと思われる点															
		街並みがきれい	緑(公園)が多い	交通の便がよい	近所づきあいができる	地域の行事が盛ん(お祭りなど)	治安がよい	買物がしやすい	医療機関が近くにある	福祉施設が近くにある	公共施設が近くにある	歴史を感じる雰囲気がある	中学校・幼稚園や小学校が近い	その他	住みやすいと感じる点はない	無回答	
全体	1622	12.3	45.9	41.0	19.0	10.1	20.2	44.6	34.2	8.6	14.7	2.5	22.5	1.8	2.9	8.6	
問2(続) これから旭区に住み続けたいか	旭区に住み続けたい	1318	13.8	47.7	43.5	21.1	11.0	22.2	47.0	37.6	9.8	15.9	2.8	24.4	1.7	2.4	6.0
	旭区以外に転居したい(または転居予定)	236	5.1	40.7	32.6	9.7	5.1	14.0	37.7	19.5	3.0	10.6	1.3	14.4	1.7	5.1	14.4
	無回答	68	8.8	27.9	22.1	10.3	10.3	4.4	22.1	19.1	5.9	5.9	0.0	13.2	2.9	4.4	39.7

心配ごとや困っていること

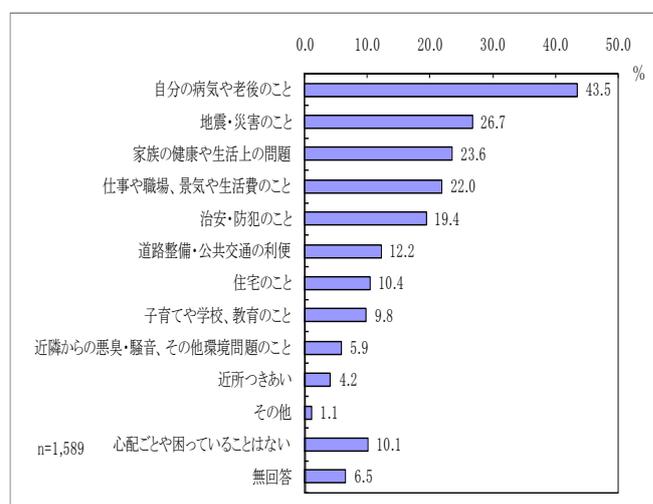
- ・「自分の病気や老後のこと」が前回の調査と同様最も多い。「地震・災害のこと」が前回の調査に比べ大幅増加。地震・災害に対する不安が増大したものとなっている。
- ・相談先は、「家族」に相談する方が圧倒的に多く、専門機関や行政より、身近な人を頼る傾向となっている。

- ・「自分の病気や老後のこと」が 42.0%で最も多く、4割以上の方が挙げている。また、東日本大震災を受けて、「地震・災害のこと」の数値が 11.5 ポイント大きく伸び、地震・災害に対する区民の不安が増大したものとなっている。

心配ごとや困っていること

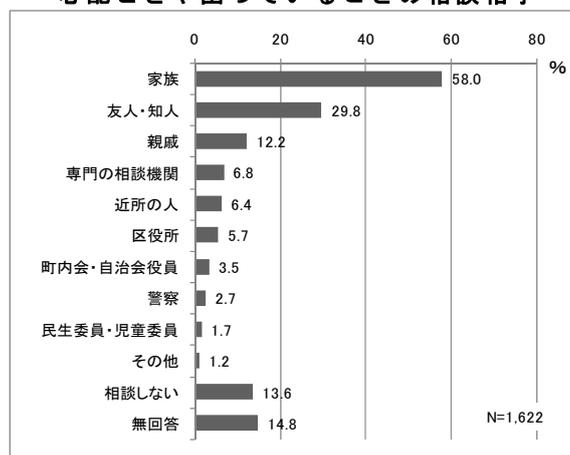


心配ごとや困っていること(平成 18 年度調査)



- ・相談先を「家族」と挙げた人が 58.0%で突出して多い。次いで「友人・知人」(29.8%)が約 3 割、「親戚」(12.2%)が 1 割強となっており、専門機関や行政より身近な人を頼る傾向となっている。なお、「相談しない」人は 13.6%で、1 割強存在する。

心配ごとや困っていることの相談相手

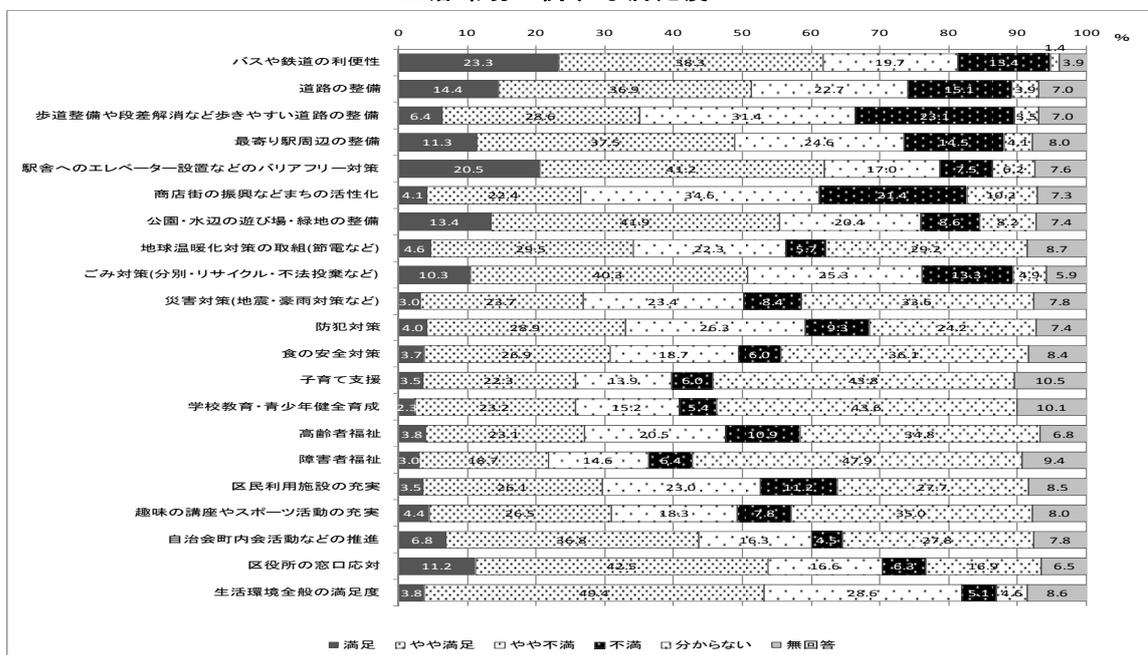


生活環境の満足度と行政に取り組んでもらいたいもの

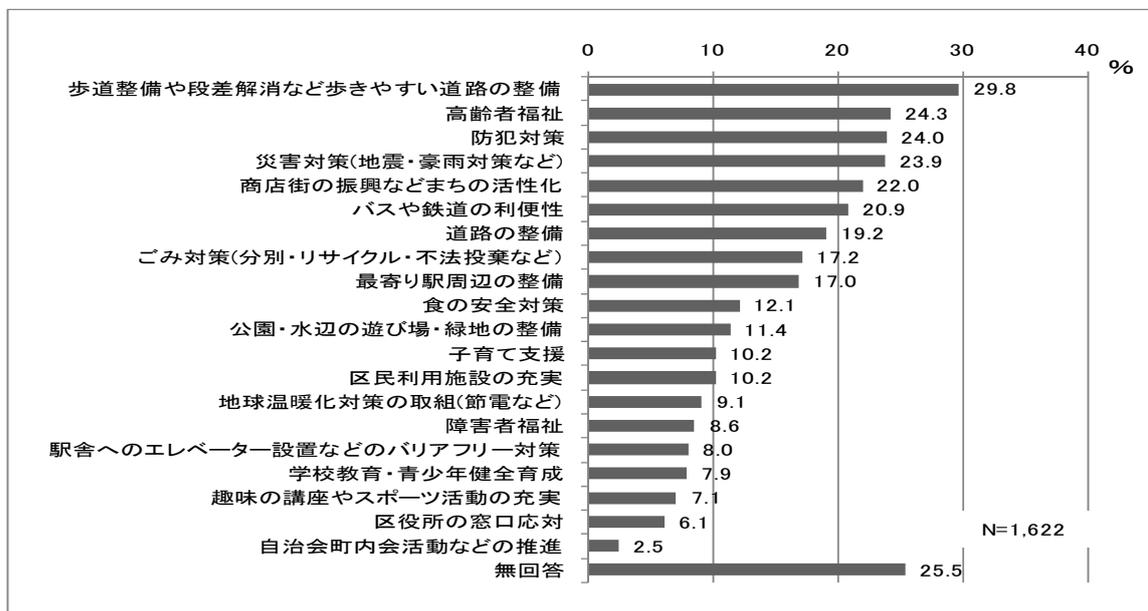
- ・「満足」「やや満足」をあわせた満足度が高くなっているのは、「駅舎へのエレベーター設置などのバリアフリー対策」と「バスや鉄道の利便性」がほぼ同率。
- ・行政に取り組んでもらいたいものは、「歩道整備や段差解消など歩きやすい道路の整備」が最も多く、「高齢者福祉」、「防犯対策」と続く。

- ・旭区の生活環境の満足度では、「駅舎へのエレベーター設置などのバリアフリー対策」、「バスや鉄道の利便性」が6割強で全項を通して満足度が最も高くなっている。
- ・行政に特に取り組んでもらいたいものでは、「歩道整備や段差解消など歩きやすい道路の整備」が最も多く29.8%と全体の約3割が挙げている。

生活環境に関する満足度



行政に特に取り組んでもらいたいもの

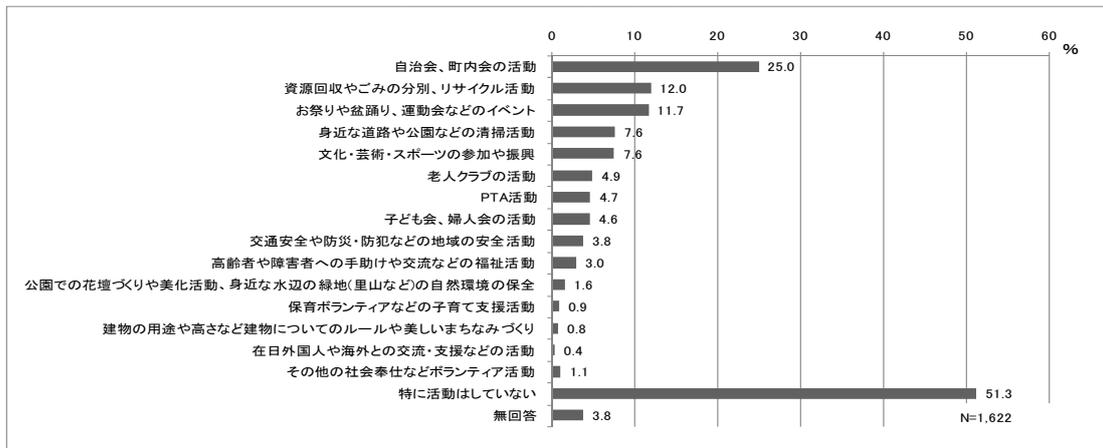


地域活動への参加

- ・「特に活動していない」が最も多いものの、40歳代では「PTA活動」、70歳以上では「老人クラブの活動」が他世代に比べ高くなっている。
- ・地域活動に参加していない理由は、「仕事や家事などで時間がとれないから」が最も多くなっている。

- ・「特に活動はしていない」が51.3%と5割強に上り、最も多い。それ以外では「自治会、町内会の活動」が最も多く、25.0%の人が挙げている。

参加している地域活動



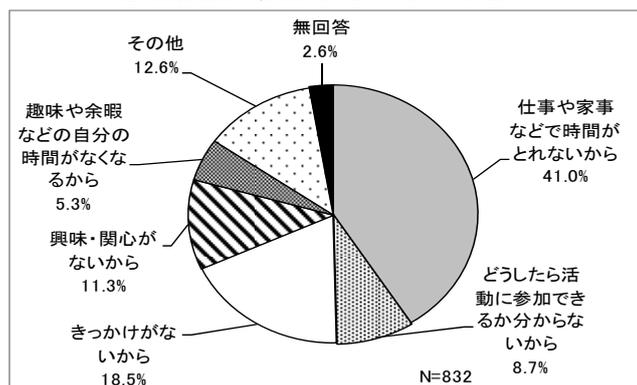
- ・年齢別ではいずれの年代でも「特に活動はしていない」が最も多い。40歳代では「PTA活動」、70歳以上では「老人クラブの活動」の数値が他世代に比べて高くなっている。

年齢別 参加している地域活動

	合計	現在、仕事や学業以外に参加している地域活動																特に活動はしていない	無回答
		自治会、町内会の活動	子ども会、婦人会の活動	老人クラブの活動	高齢者や障害者への福祉活動	掃き掃除や公園などの清掃活動	加齢や振興・スポーツの参加	お祭りや盆踊り、運動会などのイベント	資源回収やごみの分別	PTA活動	子育て支援活動	交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	流・在日外国人や海外との交流	公園での花壇づくりや美化活動	その他の社会奉仕などボランティア活動				
全体	1622	25.0	4.6	4.9	3.0	7.6	7.6	11.7	12.0	4.7	0.9	3.8	0.4	0.8	1.6	1.1	51.3	3.8	
F2-1 年齢(統計)																			
20~29歳	135	4.4	2.2	0.7	1.5	0.7	5.2	7.4	0.0	1.5	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.6	2.2	
30~39歳	210	18.1	8.6	0.5	0.0	2.4	3.8	18.1	16.2	7.6	1.4	1.0	0.0	0.0	0.5	0.5	57.1	0.5	
40~49歳	264	33.3	10.2	0.0	1.9	6.8	6.8	17.8	14.8	18.2	1.5	2.3	0.4	0.0	0.8	0.8	45.8	2.3	
50~59歳	262	30.5	3.8	0.8	1.9	4.2	4.2	9.5	13.7	3.4	0.8	3.4	0.8	1.1	1.1	1.1	51.9	2.7	
60~69歳	349	29.8	2.3	4.3	4.9	10.9	10.6	9.5	10.3	0.3	0.9	5.2	0.0	1.1	2.3	0.9	51.0	2.9	
70歳以上	371	22.1	1.9	15.6	4.0	13.2	10.5	8.4	10.5	0.0	0.3	6.5	0.8	1.3	3.5	2.2	44.7	8.4	
無回答	31	25.8	6.5	9.7	12.9	6.5	9.7	19.4	3.2	6.5	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	3.2	41.9	12.9	

- ・地域活動に参加していない理由は、「仕事や家事などで時間がとれないから」が41.0%で最も多く、全体の4割強を占める。

地域活動に参加していない理由

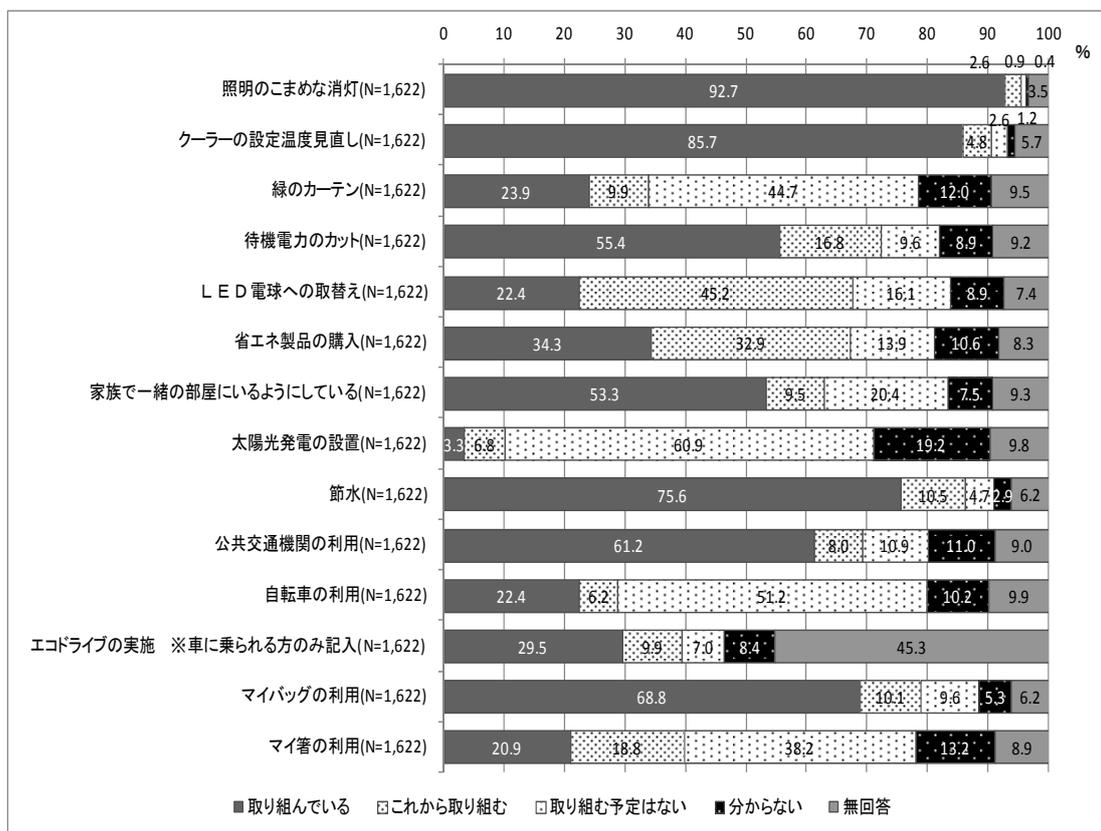


地球温暖化対策の取組状況

「照明のこまめな消灯」、「クーラーの設定温度見直し」など手軽に取り組めるものが高くなっている。「これから取り組むもの」で最も多いものは、「LED電球への取替え」。

- ・ 「取り組んでいる」が多いのは、数値の高い順に「照明のこまめな消灯」(92.7%)、「クーラーの設定温度見直し」(85.7%)、「節水」(75.6%)、「マイバッグの利用」(68.8%)、「公共交通機関の利用」(61.2%)、「待機電力のカット」(55.4%)、「家族で一緒の部屋にいるようにしている」(53.3%)、「省エネ製品の購入」(34.3%)、「エコドライブの実施(車に乗られる方のみ)」(29.5%)の9項目となっており、手軽に省エネに取り組める項目で数値が高い。
- ・ 「これから取り組む」が最も多いのは「LED電球への取替え」(45.2%)。

地球温暖化対策の取り組み状況



防災

<災害への備え>

- ・「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が約9割で最も多い。

<地域防災拠点(震災時避難場所)>

- ・8割以上の方が地域防災拠点(震災時避難場所)を知っている。
- ・地域防災拠点(震災時避難場所)での避難生活で不安なこととして、約8割が「トイレ」を挙げている。

<防災訓練>

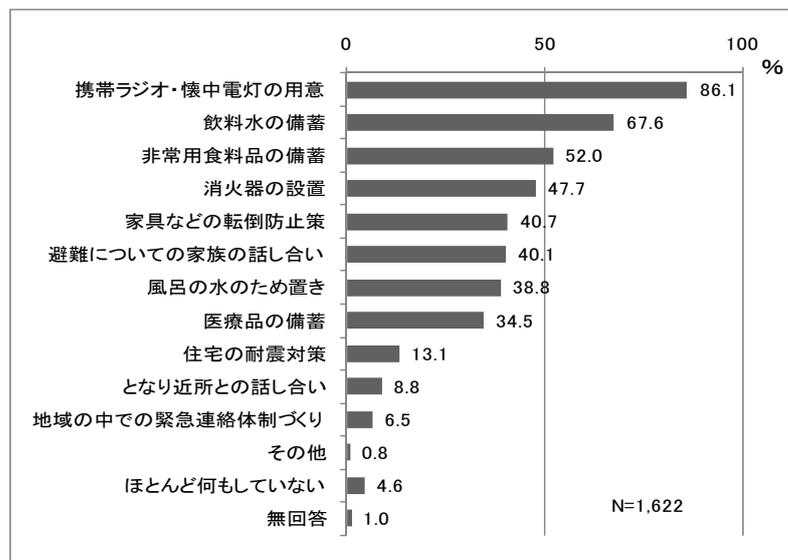
- ・「参加したことがある」が約4割。
- ・参加しない理由は「仕事や家事などで時間がとれないから」が最も多い。

<単独で避難が難しい方(高齢者や障害者など)>

- ・隣近所に「いる」「いない」がいずれも3割前後。
- ・単独で避難が難しい方へ協力できそうなことは、「『大丈夫ですか』などの声かけ」が7割以上で最も多い。

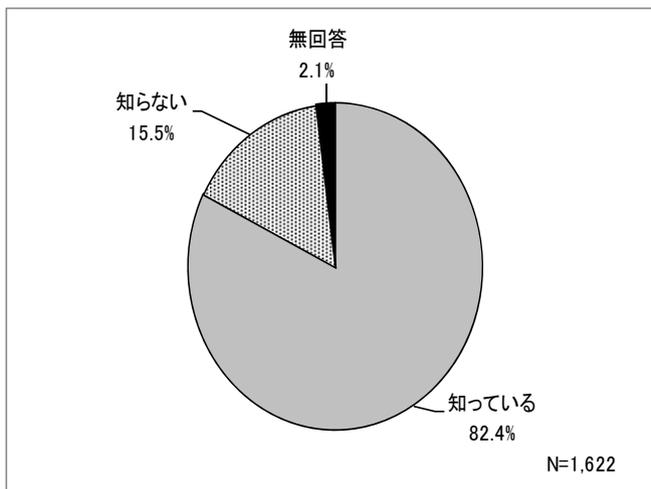
- ・災害への備えは、「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が86.1%で最も多く、9割近い人が挙げている。次いで「飲料水の備蓄」(67.6%)、「非常用食料品の備蓄」(52.0%)と続く。

災害に対する備え

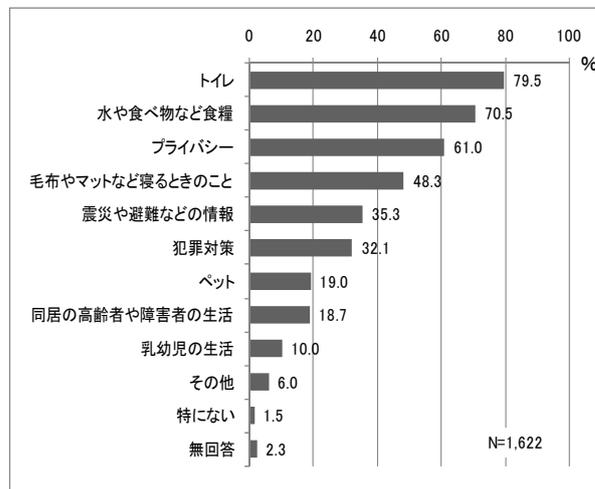


- ・ 地域防災拠点(震災時避難場所)の認知度は、「知っている」が 82.4%で、「知らない」の 15.5%を大きく上回っている。
- ・ 地域防災拠点での避難生活で不安なことは、「トイレ」が 79.5%で 8 割近くの人が挙げ、最多となっている。次いで「水や食べ物など食糧」(70.5%)を 7 割、「プライバシー」(61.0%)を 6 割が挙げている。

自分の地域防災拠点(震災時避難場所)の認知度

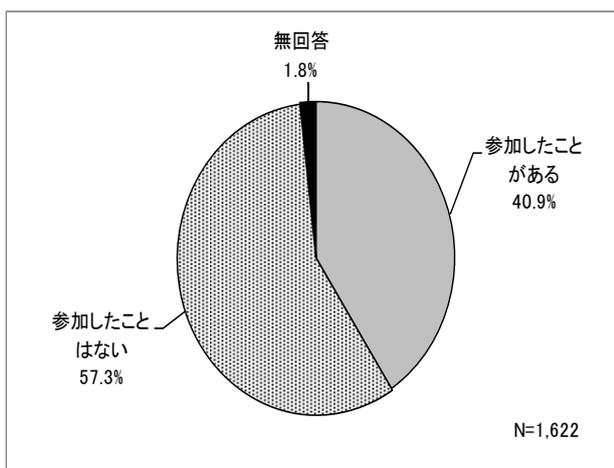


地域防災拠点での生活に対する不安

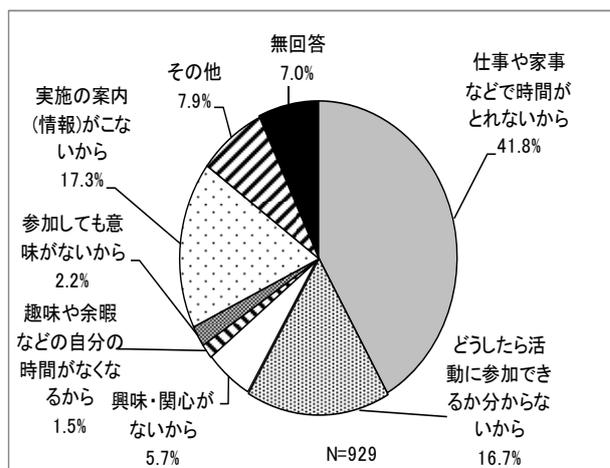


- ・ 防災訓練に「参加したことがある」は 40.9%で全体の約 4 割、「参加したことはない」は 57.3%で 6 割弱となっている。
- ・ 参加しない理由としては、「仕事や家事などで時間がとれないから」が 41.8%で最も多く、4 割超を占めている。次いで「実施の案内(情報)がこないから」が 17.3%、「どうしても活動に参加できるか分からないから」が 16.7%でほぼ並ぶ。

防災訓練などへの参加経験

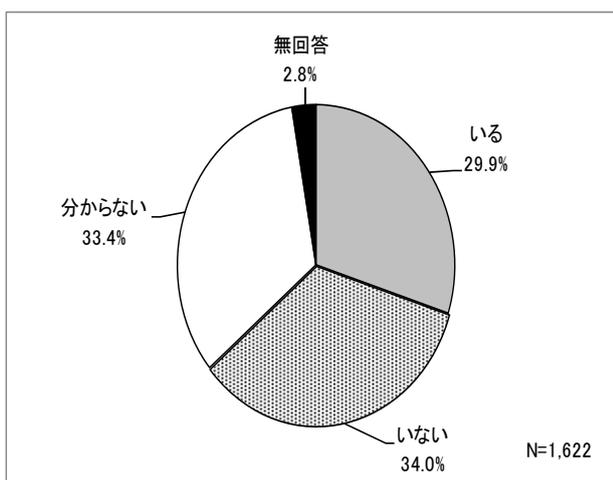


防災訓練などに参加しない理由

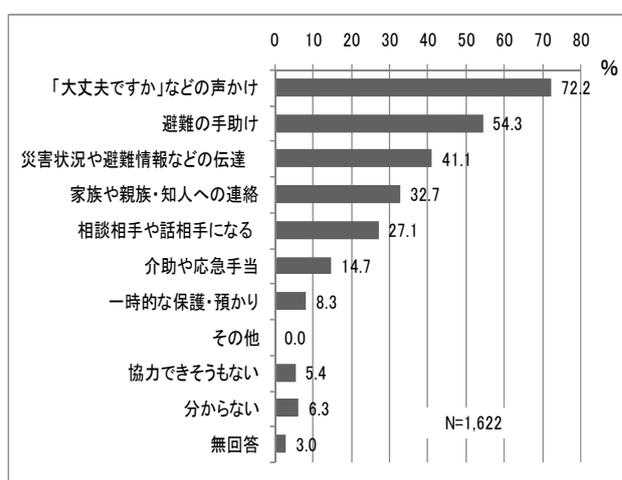


- ・ 災害時に単独で避難が難しい方(高齢者や障害者など)が隣近所に「いない」が 34.0%、「分からない」が 33.4%、「いる」が 29.9%と、いずれも 3 割前後でほぼ拮抗している。
- ・ 単独で避難が難しい方へ協力ができそうなこととして、『大丈夫ですか』などの声かけ」が 72.2%で最も多く、7 割以上の人が「できる」としている。(自分や家族の安全がおおむね確保されていると仮定。)

災害時に単独で避難が難しい方の有無



単独で避難が難しい方に対してできる協力



高齢者とのかかわり

＜高齢者とのかかわり＞

- ・「あいさつ(声かけ)をしている」が約7割で最も多い。
- ・「特にかかわりはない人」と答えた方の理由は、「きっかけがないから」と「身近に高齢者がいないから」が多い。

＜60歳以上の方が地域のためにできること＞

- ・「清掃活動」が最も多く、次いで「地域行事への参加など自治会・町内会活動」と続く。

＜高齢になった時の不安＞

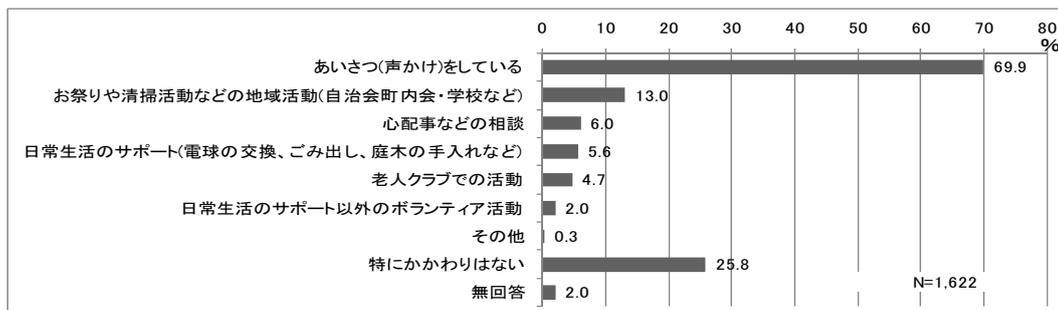
- ・多くの方が「健康」と「お金・経済」を挙げている。

＜今後必要な高齢者への取組＞

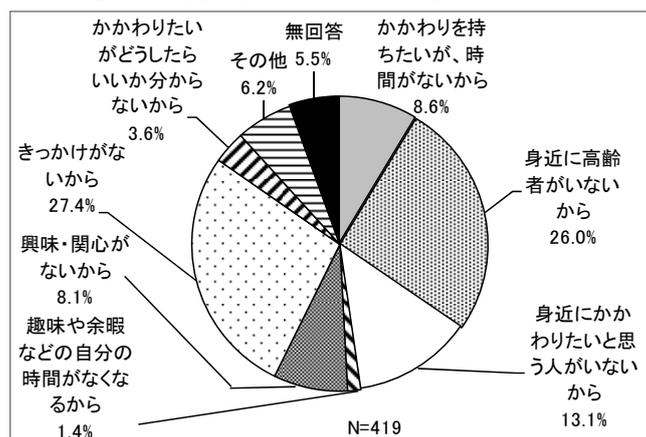
- ・「介護予防など健康の維持管理」「買物、通院など外出に対する支援」が多くなっている。

- ・ 高齢者とのかかわりでは、「あいさつ(声かけ)をしている」が 69.9%で約7割の人が挙げており、突出して多くなっている。また、次に多いのが「特にかかわりはない」の 25.8%で、全体の4分の1が挙げている。
- ・ 「特にかかわりはない」と答えた方の理由は、「きっかけがないから」が最も多く27.4%、次いで「身近に高齢者がいないから」が26.0%と僅差で続き、これらがそれぞれ4分の1強となっている。

地域の高齢者とのかかわり



地域の高齢者とかがわりがない理由



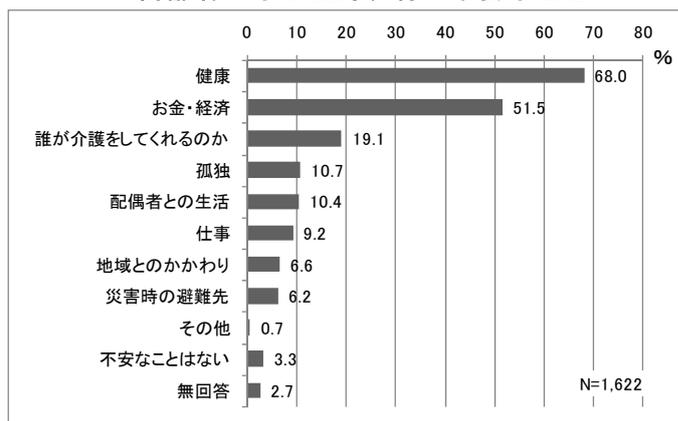
- 60歳以上の方が地域のためにできることで最も多いのは「清掃活動」となっている（「60歳代」（53.3%）、「70歳代以上」（36.1%））。次いで、60歳代で「地域行事への参加など自治会・町内会活動」（49.0%）、70歳代以上で「できることはない」（29.9%）と続く。

年齢別 地域のためにできると思うこと

	合計	問14 地域のためにできると思うことは何か								
		趣味や特技を教える	勉強を教える	スポーツを教える	清掃活動	防災活動	自治会・町内会活動など	その他	できることはない	無回答
全体	1622	12.4	3.9	4.7	46.7	15.8	38.4	1.2	18.0	5.1
F2-1 年齢（統合）										
20～29歳	135	13.3	11.9	7.4	51.9	11.1	24.4	1.5	20.7	0.7
30～39歳	210	13.8	8.1	7.1	50.5	14.8	34.3	1.4	14.3	2.9
40～49歳	264	9.8	4.2	4.2	44.7	17.8	45.5	1.5	15.5	2.3
50～59歳	262	9.9	2.7	5.0	50.8	22.9	41.6	1.1	14.9	2.3
60～69歳	349	14.6	0.9	3.4	53.3	19.5	49.0	0.9	11.7	4.9
70歳以上	371	12.7	2.2	3.2	36.1	9.7	28.6	1.1	29.9	10.5
無回答	31	12.9	3.2	9.7	35.5	0.0	38.7	0.0	6.5	22.6

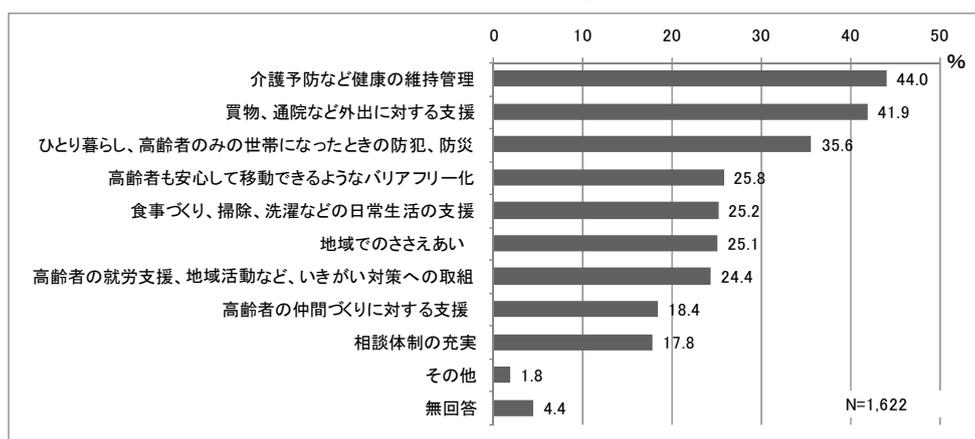
- 高齢になった時の不安として、「健康」が68.0%で最も多く、7割近い人が挙げている。次いで「お金・経済」が51.5%で半数を超える人が挙げており、この2点に回答が集中している。

高齢者になった時、特に不安なこと



- 今後、高齢者が増える中、どのような取組が必要かについては、「介護予防など健康の維持管理」が44.0%、「買物、通院など外出に対する支援」が41.9%とほぼ並ぶ。次いで「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になったときの防犯、防災」が35.6%で3割を超えている。

高齢者が増える中、必要な取組



老人クラブについて

<認知度>

- ・老人クラブを「知っている」は6割以上。

<老人クラブへの加入>

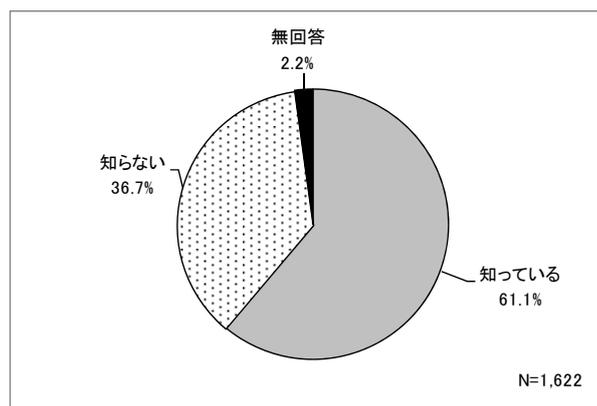
- ・高齢者だけではなく、様々な年代が加入できることを「知っている」は2割にとどまる。

<加入促進>

- ・「もっと活動内容をPRした方がよい」「若い世代も参加できるようにPRをした方がよい」と、PRに関する項目が多くなっている。

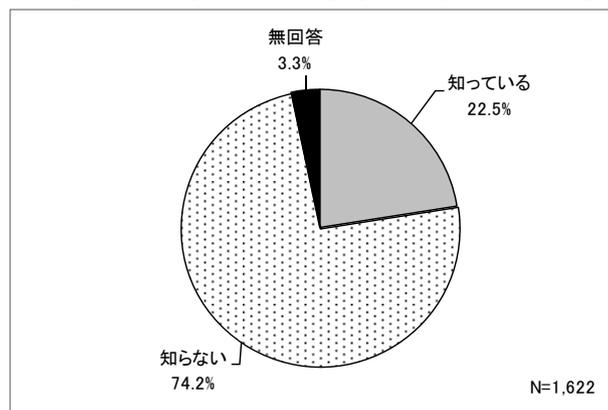
- ・老人クラブの認知度では、「知っている」が61.1%で、「知らない」の36.7%を大きく上回り、認知度は6割以上に達している。

老人クラブの認知度



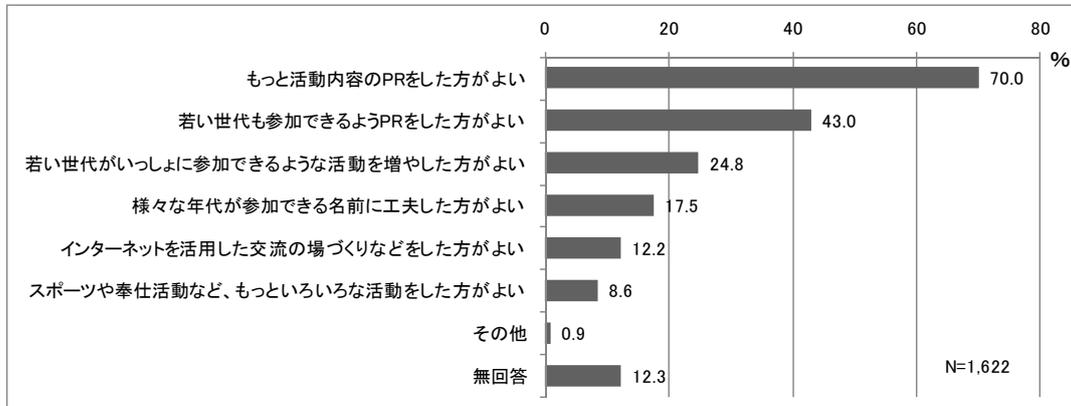
- ・老人クラブには、高齢者だけではなく、様々な年代の方が加入できることについて、「知らない」が74.2%で全体の4分の3近くに達する一方、「知っている」は22.5%と2割強に留まっており、老人クラブに高齢者でなくても加入できることはあまり知られていない。

様々な年代の方が加入できることを知っているか



- ・ より多くの方に参加していただくためには、「もっと活動内容のPRをした方がよい」が70.0%で、7割の人が挙げている。次いで「若い世代も参加できるようPRをした方がよい」が43.0%で、PRに関する2項目が多くなっている。

参加者を増やすために必要な取組



子どもとのかかわり

<子どもとのかかわり>

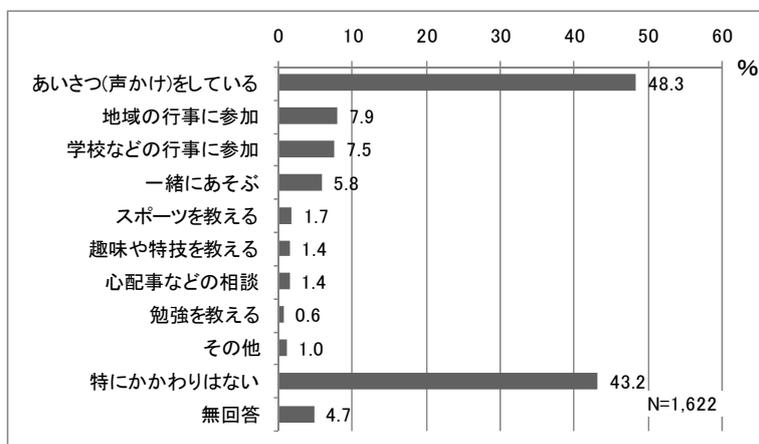
- ・「あいさつ(声かけ)をしている」が約5割で最も多い。

<子どもに関するボランティア活動>

- ・「していない」が圧倒的に多くなっている。
- ・主な理由は、「きっかけがないから」と「自分の子どもが大きくなったら」。

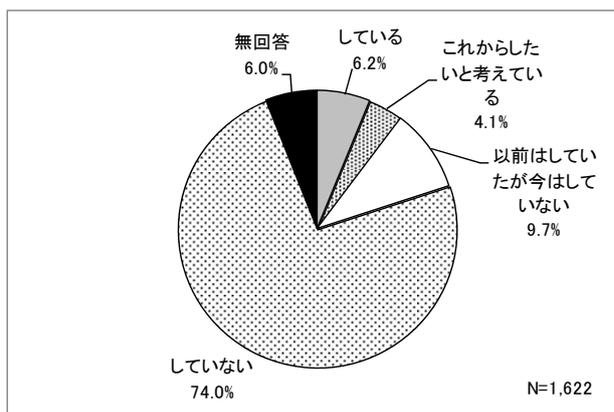
- ・子どもとのかかわりでは、「あいさつ(声かけ)をしている」が48.3%で最も多いが、次に多いのが「特にかかわりはない」の43.2%である。

地域の子ども(小学生以下)とのかかわり

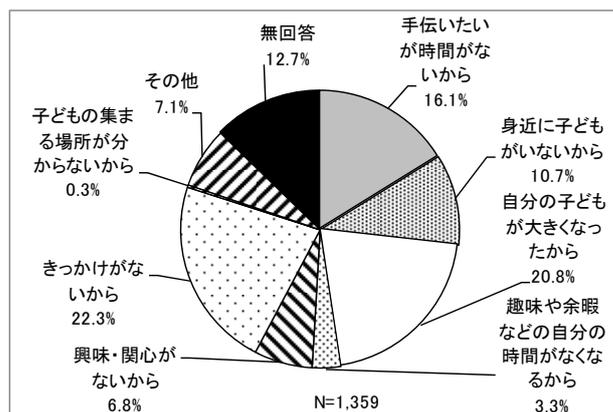


- ・子どもに関するボランティアでは、「していない」が74.0%で圧倒的に多く、全体の4分の3弱を占める。以下大きく離れて「以前はしていたが今はしていない」(9.7%)、「これからしたいと考えている」(4.1%)と続く。
- ・子どもに関するボランティアとしない理由は、「きっかけがないから」が22.3%、次いで「自分の子どもが大きくなったから」が20.8%で、これら2つが2割を超えている。

子どもに関するボランティア活動への参加



ボランティア活動をししない理由



子育て

〈気になること、困ること〉

- ・「子どもが犯罪にあわないか心配」が5割以上で最も多い。

〈必要な支援〉

- ・「身近で安心して子どもが遊べる場所」が約4割で最も多く、「経済的な支援」と続く。

〈子育て支援のサービス〉

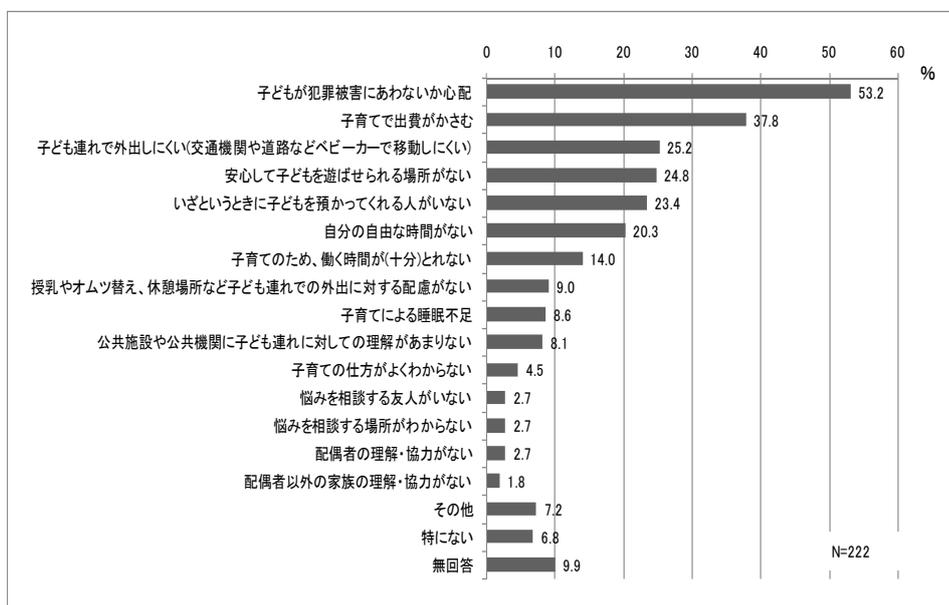
- ・子育て支援のサービスの認知度では、「区役所の保健師などの訪問」と「地区センターなどでの子育て支援者による相談」が2割を超える。
- ・子育て支援のサービスを知っている方が利用したことのあるサービスは、「区役所の保健師などの訪問」「赤ちゃん教室」と続く。
- ・「未就園児」、「幼稚園」、「保育園」の子どもがいる方が、子育て支援のサービスを利用したことがない理由は、「家や近所で間に合っているから」「行きたいけど、時間がないから」が多くなっている。

〈子どもと一緒に過ごす時間〉

- 平日**・「5時間以上」が約4割でもっとも多く、約7割が概ね満足している。
 - ・女性は「5時間以上」が最も多いが、男性は「2～3時間」が最も多い。
- 休日**・「5時間以上」が圧倒的に多く、約8割が概ね満足している。
 - ・男性、女性とも「5時間以上」が最も多く、平日と比較すると男女差は少なくなっている。

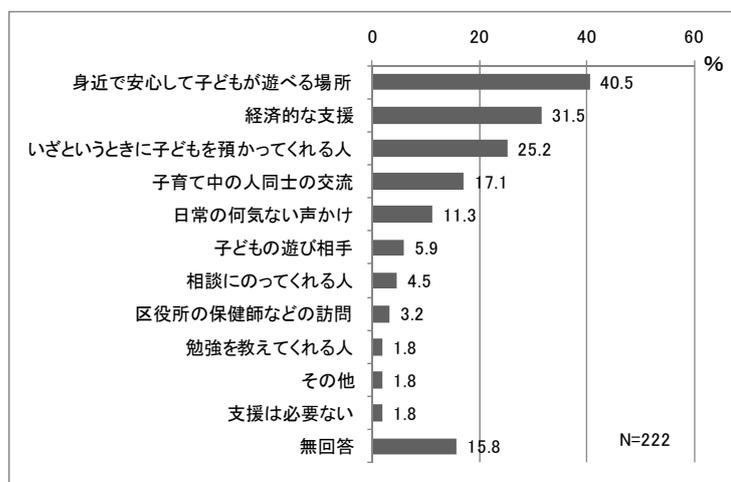
- ・子育てをされていて気になること、困ることは、「子どもが犯罪被害にあわないか心配」が53.2%で最も多く、半数を超える人が挙げている。次いで「子育てで出費がかさむ」が37.8%で、4割弱である。

子育てをされていて気になること、困ること



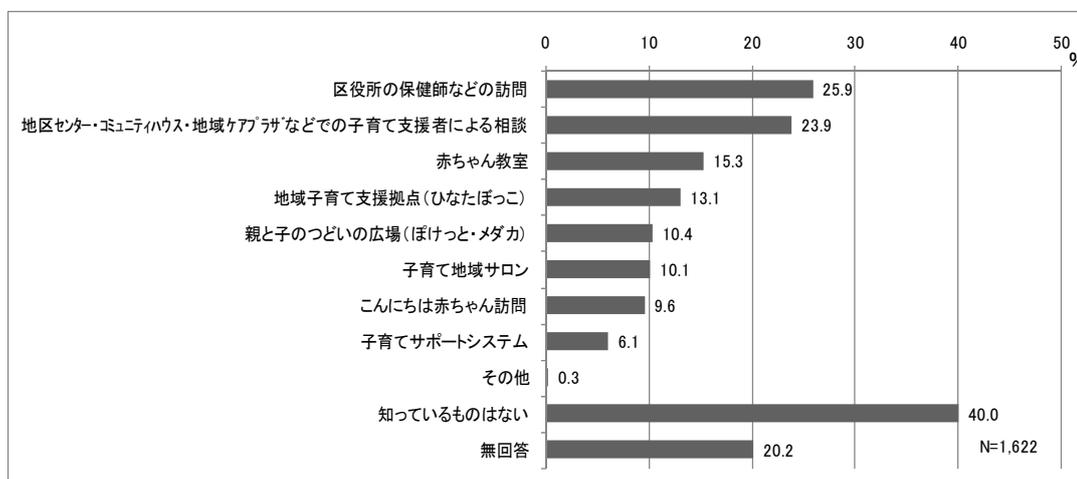
- ・ 子育てに必要な支援では、「身近で安心して子どもが遊べる場所」が 40.5%で最も多く、約 4 割の人が挙げている。次いで「経済的な支援」が 31.5%で 3 割程度である。

子育てに必要な支援

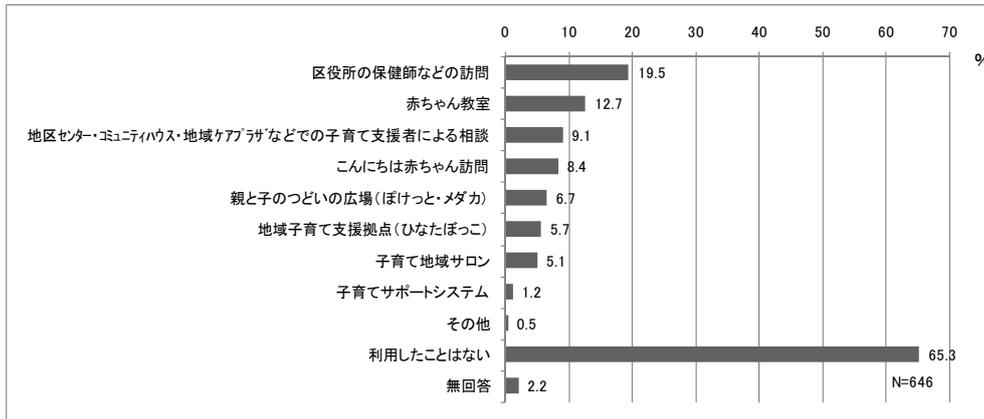


- ・ 子育て支援のサービスでは、「知っているものはない」の 40.0%が最も多い。それ以外で多いのは、「区役所の保健師などの訪問」の 25.9%。次いで僅差で「地区センター・コミュニティハウス・地域ケアプラザなどでの子育て支援者による相談」の 23.9%となっている。
- ・ 子育て支援のサービスの利用について、サービスを知っている方では、「利用したことはない」の 65.3%が最も多くなっており、利用度は低くなっている。それ以外で多いのは、「区役所の保健師などの訪問」が 19.5%、次いで「赤ちゃん教室」が 12.7%、「地区センター・コミュニティハウス・地域ケアプラザなどでの子育て支援者による相談」が 9.1%と、認知度の高いものの利用度が高くなっている。
- ・ 「未就園児」「幼稚園」「保育園」の子どもがいる方が、子育て支援のサービスを利用したことはない理由は、「未就園児」と「幼稚園」では「家や近所で間に合っているから」が最も多く、「保育園」では「家や近所で間に合っているから」「行きたいけど、時間がないから」が最も多くなっている。

知っている子育て支援のサービス



利用したことがある子育て支援のサービス

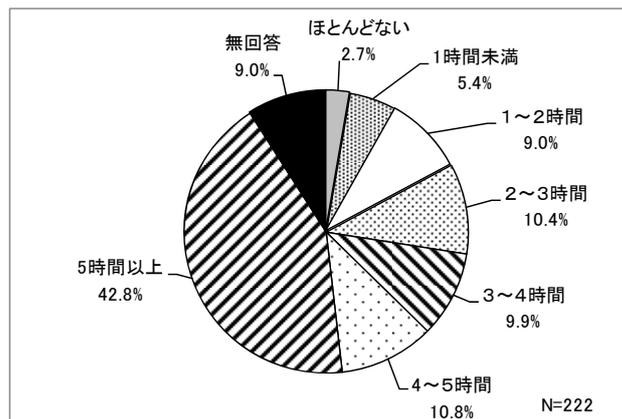


子どもの有無と段階別 子育て支援のサービスを利用しない理由

	合計	問22-2 [「問22-1」で「10 利用したことはない」を選んだ方] 利用しない理由												
		子育てが一段落したから・子供がいないから	行くのに不便・遠いから	行きたいけど、時間がな	いから	行きたいけど、きつかけ	が	行きたいけど、きつかけ	意味がなさそうだから	ないから	何をやっていいのか分から	る家や近所	う訪問されるのが面倒に思	その他
全体	422	85.5	1.4	2.1	1.7	0.5	1.7	5.0	0.9	2.4	1.7			
F5 子どもの段階	未就園児(除・幼稚園・保育園児)	16	0.0	18.8	18.8	25.0	0.0	0.0	37.5	12.5	6.3	6.3		
	幼稚園	14	14.3	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0	28.6	14.3	14.3	7.1		
	保育園	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
	小学生	31	32.3	3.2	6.5	0.0	3.2	9.7	29.0	3.2	19.4	3.2		
	中学生	20	60.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	25.0	0.0	10.0	0.0		
	高校生	24	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0		
	各種学校・専修・専門学校在学中	8	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0		
	短大・大学・大学院在学中	32	90.6	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	6.3	0.0	0.0	3.1		
	学校教育終了・未婚・同居	97	93.8	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	4.1	0.0	0.0	1.0		
	学校教育終了・未婚・別居	61	90.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	4.9	3.3		
	学校教育終了・既婚・同居	20	95.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	学校教育終了・既婚・別居	145	91.0	0.0	2.1	1.4	0.0	0.7	2.1	0.0	1.4	2.1		
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	子どもはいない	86	97.7	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2		
無回答	20	95.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0			

- 平日、子どもが起きている時間に子どもと一緒に過ごす時間は、「5時間以上」が最も多く42.8%で、4割強に達する。
- 女性は「5時間以上」が最も多く、男性を46.3ポイント上回っている。一方男性は「2～3時間」が最も多い。また男性は「1時間未満」「ほとんどない」を合わせると23.9%で、女性を23.3ポイント上回っており、男女で大きな差がみられた。
- 「満足している」「どちらかといえば満足」を合わせると68.5%で、7割弱の人は概ね満足している。一方「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせると22.5%で、2割強の人は満足できていない。

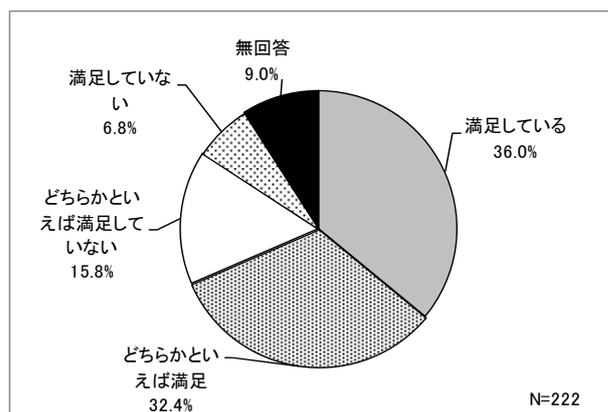
平日、子どもが起きている時間に、子どもと一緒に過ごす時間



男女別

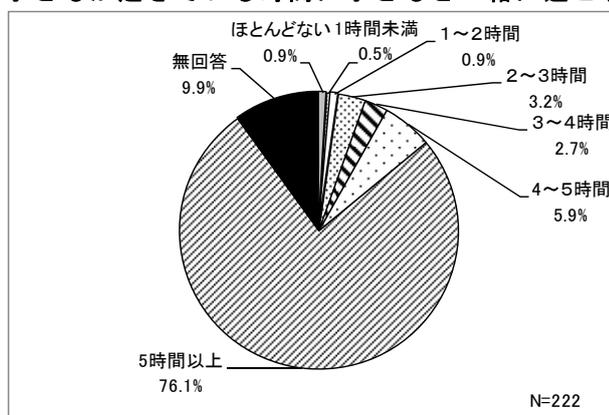
		合計	問23 (小学生以下の子どもがいる方) 平日、子どもが起きている時間に、子どもと一緒に過ごす時間							
			ほとんどない	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4~5時間	5時間以上	無回答
全体		222	2.7	5.4	9.0	10.4	9.9	10.8	42.8	9.0
F1 性別	男性	71	7.0	16.9	15.5	22.5	8.5	7.0	11.3	11.3
	女性	151	0.7	0.0	6.0	4.6	10.6	12.6	57.6	7.9
	無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

満足度



- ・ 休日、子どもが起きている時間に子どもと一緒に過ごす時間は、「5時間以上」が76.1%で圧倒的に多く、全体の4分の3を超えている。
- ・ 男女とも「5時間以上」が最も多く、女性が男性を10.5ポイント上回っているものの平日に比べれば男女差は小さくなっている。
- ・ 「満足している」「どちらかといえば満足」を合わせると79.3%で、8割弱の人は概ね満足している。一方「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせると10.8%で、約1割が満足できていないとしているが、満足度は平日に比べて高くなっている。

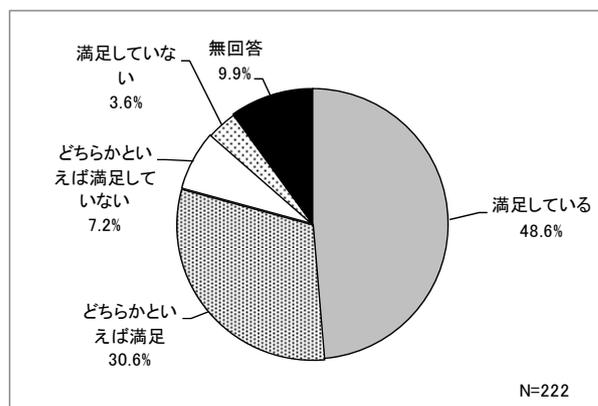
休日、子どもが起きている時間に子どもと一緒に過ごす時間



男女別

		合計	問24 (小学生以下の子どもがいる方) 休日、子どもが起きている時間に、子どもと一緒に過ごす時間							
			ほとんどない	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4~5時間	5時間以上	無回答
全体		222	0.9	0.5	0.9	3.2	2.7	5.9	76.1	9.9
F1 性別	男性	71	2.8	0.0	0.0	7.0	4.2	5.6	69.0	11.3
	女性	151	0.0	0.7	1.3	1.3	2.0	6.0	79.5	9.3
	無回答	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

満足度

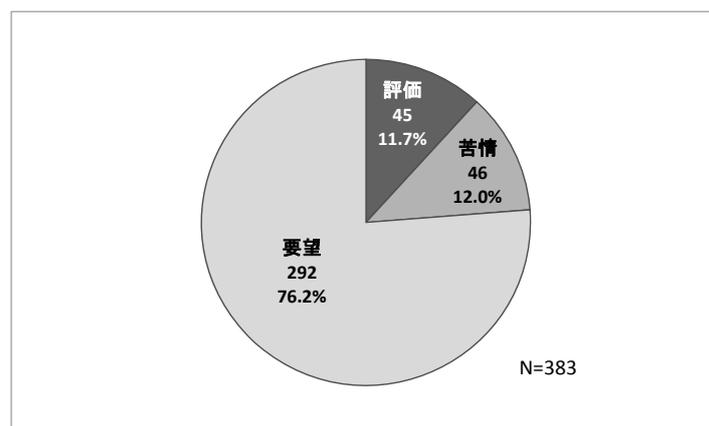


旭区役所の取組についての意見や提案

- ・意見や提案の約8割は「要望」に関するもので、「苦情」「要望」に関するものは、それぞれ約1割となっている。
- ・分野別では、「区政・区役所サービス」が最も多く、「道路・交通」「子育て支援・教育」と続く。

- ・旭区役所の取組についての意見、提案(自由記述)には、330人が回答し、383件の意見があった。
- ・意見の内容は多岐にわたるが、大きく「評価」「苦情」「要望」に区分してみると、全体の76.2%は「要望」であり、「苦情」は12.0%、「評価」は11.7%であった。
- ・分野(大分類)別にみると、「区政・区役所サービスについて」が122件ともっとも多く、次いで、「道路・交通について」(65件)、「子育て支援・教育について」(32件)、「安全・安心について」(30件)、「高齢者・障害者等福祉について」(26件)の順となっている。

自由記述内容の種類



自由記述内容の種類(大分類別)

大分類	評価	苦情	要望	総計
区政・区役所サービスについて	31	21	70	122
道路・交通について			65	65
子育て支援・教育について	2		30	32
安全・安心について			30	30
高齢者・障害者等福祉について		1	25	26
環境問題について		1	22	23
アンケート調査について	7	10	4	21
まちづくりについて			20	20
生活環境について		7	4	11
医療・健康について	1	4	4	9
文化・スポーツについて			7	7
コミュニティについて	1	1	3	5
経済について			5	5
観光・イベントについて			3	3
その他	3	1		4
合計	45	46	292	383



旭区区民意識調査にご協力いただき、ありがとうございました

発行 旭区 区政推進課 企画調整係

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12

電話 045-954-6027

FAX 045-951-3401

e-mail as-kikaku@city.yokohama.jp